

群馬 真田街道

ハイエースでゆく
にっぽん
Nippon
自遊旅

真田を追って上州へ
手柄取ったり! 群馬旅

文=湯目由明 写真=佐藤亮太

もちろん温泉やアウトドアも忘れずに。

両県を結ぶ「真田街道」に沿って

かつて真田氏が統治した群馬と長野。

真田ゆかりの名所旧跡を訪ねる。

いざ、真田「丸ごと」楽しむ旅へ。

群馬夏の陣、幕開けじゃー!



りんご狩り直売
見城りんご園

87
をラル

変わる川原湯と、変わらない川原湯

戦国の世にその名をとどろかせた勇壮なる真田氏。上田城を訪問した一行は次の目的地、群馬を目指す。旅のはじまりは一族が拠点築いた吾妻地域から。そこにはかつてダム建設で話題になった温泉地があった。

群馬 真田街道

ハイエースでゆく Nippon 自遊旅

真田を追って上州へ 手柄取ったり! 群馬旅



行ってきます!

●間越道・高崎玉村スマートICから約6kmの場所にあるフレックス・ドリームの高崎店でLINE-X&リフトアップ仕様のFD-BOX 2T改を受け取りいざ出陣。クロカン四駆風のルックスはアウトドアムード満点

大 河ドラマの放映前にひと足早く真田氏の足跡をたどった34号の「長野上田の旅」。ドラマでは徳川、北条、上杉、豊臣といった名だたる戦国大名を相手に、東信濃の一國衆に過ぎなかつた真田一族が強い存在感を示し、巧みな戦略と家族の固い絆で乱世を生き抜く姿が、歴史にあまり詳しくない筆者のような視聴者にも丁寧に分かりやすく描かれ、話題性に富んだキャストイングも手強い、高視聴率をキープする。真田氏のシンボルといえば、ドラマの主人公である真田幸村(信繁)の父、真田昌幸が築いた上田城。周囲を掘と土塁で囲み、出入り口に石垣を積み上げたシンプルな構造ながら、徳川の大军をわずか15分の1の兵力で二度にわたって退けた、難攻不落の城として知られる。本拠の東信濃から上州にも勢力を伸ばした真田氏の、軍事上の重要ルートが長野県の上田市から日本一のキャベツ産地として有名な群馬県嬬恋村を経て沼田市を結ぶ国道144/145号線、通称「真田街道」だ。沿線には山の中腹に築かれた岩櫃城や、利根川などの浸食で出来た河岸段丘の地形を生かし要害の城として築かれた名胡桃城など、真田ゆかりの史跡が点在。それらを巡りながら真田氏の足跡をたどる旅に出た。

旅人

ゆのめ・よしあき

●中之条の中心部にある「ミュゼ」でおあつらえ向きの顔ハメ看板を発見し、編集担当の松森さんと撮影。看板のデザインモチーフになっている鳥追い祭とは田畑の作物を荒らす鳥獣を追い払い、五穀豊穡や町内厄除、家内安全を祈願するため始められたとされる。毎年1月14日に神事後、男衆が太鼓をたたきながら町内を練り歩く



岩櫃城跡 群馬県吾妻郡東吾妻町原町



●南北朝時代に標高802.6mの岩櫃山の中腹に築かれた山城。頂上から200m下った場所に本丸と二の丸、中城がある。城郭の大きさは上州最大規模で、甲斐の岩殿城、駿河の九能城と並び武田領内の三名城と称された



●写真は本丸下に延びる長大な壑堀。幅の広さが規模の大きさを物語る。東西約1.9kmの尾根線上に主な遺構があり、南側は谷を自然の堀として、南東側は岩櫃山の山裾の斜面が壁面になり、吾妻川を自然の堀とするなど、地形のメリットを生かした天然の要害だ。岩櫃城の南側には武田勝頼を迎い入れるためにわずか3日で建てられたとされる潜龍院跡がある



●道の駅の裏手には天然温泉が引かれた無料の足湯がある。目の前に広がる大自然や不動大橋を眺めながらドライブで疲れた足首を温めることで血行がよくなり、新陳代謝を高める。備え付けの足湯タオルは200円で販売

道の駅 ハツ場ふるさと館

群馬県吾妻郡長野原町林1567-4 ☎0279-83-8088



●コンビニ(7時~19時)や24時間利用可能なトイレ、地元の特産品や新鮮野菜が揃った農産物市場が備わり、大型駐車場での中泊もOK。近隣には日帰り温泉があり、食堂では名物のハツ場ダムカレーが味わえる



ダムが崩壊!



●完成すれば国内最大の貯水量となるハツ場ダム湖を横断する不動大橋。長さは590mで世界初の複合トラス橋として橋梁ファン注目の。紅葉シーズンの眺めは最高だ

南北朝のころに築城され、武田氏と上杉氏の覇権争いでも重要な役割を果たした岩櫃城跡のある東吾妻町。武田信玄が上州攻略のために真田昌幸の父、幸隆に岩櫃の攻略を命じ落城後、真田氏が代々支配してきた。幸村も少年時代を岩櫃城で過ごしたと伝えられている。真田丸でもその様子が描かれ、放映に合わせて本丸に続く登山道や案内所が整備され、人気の観光スポットになっている。岩櫃城のある東吾妻町内を流れる利根川の支流が吾妻川。はるか昔に火山が噴き出し固まった溶岩を川水が深く浸食して作られたのが吾妻渓谷で、「関東の耶馬溪」とも称される。その名勝に指定されている。新緑や紅葉の季節には渓谷沿いを通る真田街道(国道145号線)が大渋滞する。その吾妻渓谷に建設されているのが、首都圏の水資源の安定確保を目的としたハツ場ダム。民主党政権時代に当時の前原国土交通大臣が建設中止を表明したことも知られ、完成すれば国内最大級の貯水量となる。周辺整備が着々と進められ、水没予定地を通る国道145号線やJR吾妻線は新ルートに切り替えられ、同じくダムの底に沈む名湯、川原湯温泉や住宅地も高台に移転している。ダムによって失われるものもあるが、新たな観光名所も生まれている。バイパス沿いには道の駅「ハツ場ふるさと館」がオープン。無料の足湯や24時間利用可能なトイレ、コンビニ、直売所があり、車中泊も歓迎という、旅好きのハイエースオーナーには魅力的な道の駅。駅のすぐ横に架かる不動大橋からの眺めも絶景だ。

天下の奇祭 湯かけ祭り

ふんどし姿の男たちが湯をかけ合って湯の神様に感謝するユニークな行事「湯かけ祭り」。毎年1月20日の早朝に川原湯温泉で開催されており、天下の奇祭として知られている。これまで旧川原湯温泉の共同浴場「王湯」前で行なわれていたが、2015年から代替地に建てられた「王湯会館」(写真上)前に場所を移して継続されている。われわれも取材を試みたものの、大雪で交通が麻痺し断念。見たかったなあ…(祭りの写真は長野原町提供)



●道の駅ハツ場ふるさと館のやや東にあるのが、着々と進行するダム本体工事を間近で見られる「やんば見放台」。近くにあるハツ場大橋からはダムサイトや吾妻渓谷が見渡せる



●平成27年にオープンした「やんば見放台」。対岸で発破を掛ける様子や川原湯地区、ハツ場大橋などが一望できる新たな観光スポット。発破実施の有無や時刻は工事看板に記載



ハツ場ダム

●利根川流域の生命・財産を洪水から守るとともに、首都圏の水資源の安定確保を目的とした国家プロジェクトとして、昭和27年から調査が行なわれ、平成31年度の完成を目指して吾妻川中流に建設中の多目的ダム。下流に建設されるハツ場発電所ではダムに貯水した水を使い、水位を利用して発電が行なわれ、名勝地の吾妻渓谷の景観を保つために必要な水を吾妻川に流す



林昌寺

群馬県吾妻郡中之条町伊勢町1002

真田家
2つの家紋



●本堂と観音堂の屋根に見られる六文銭の寺紋が真田との強いつながりを示す。戦時の色合いが濃い六文銭に対し、結び雁金は雁の両羽を円形に据った紋を結んだ形で、平時に使われた

●四百年以上前に建立された本堂の格天井には鮮やかな天井画が（通常非公開）。境内には町指定天然記念物のシダレザクラやゆかりの人物の墓、石仏、供養塔などが点在している



●文安年間（1444～1449年）に、天台宗の僧侶である長馨によって創建されたと伝えられる。戦国時代に一度荒廃したものの、武田信玄の家臣だった真田幸隆の弟、矢沢薩摩守頼綱が再建へと導いた。写真は本堂手前にたずむ山門。左右に仁王像が安置されている

中之条町の中心にある真田ゆかりの史跡が林昌寺。戦国時代に荒廃したが、再建へと導いたのが武田信玄の家臣である真田幸隆の弟、矢沢薩摩守頼綱だ。後にこの地の領主となった幸隆の子、昌幸が六文銭の寺紋と改修資金を与え、寺勢を伸ばした。真田との強いつながりを示す証が、本堂と観音堂の屋根に見られる六文銭の寺紋。境内には町指定の天然記念物「シダレザクラ」や、平成おじさん、ブッチホン、など数々のパフォーミングで人気を集めた第84代内閣総理大臣の小淵恵三氏など、中之条ゆかりの人物の墓が点在する。中之条への知識を深めるために足を運んだのが、歴史と民俗の博物館ミュージゼ。明治18年に建てられた旧吾妻第三小学校の校舎を活用して、時代やテーマ別に分けられた展示室では約6000点の町に関する歴史・民俗資料が公開されている。明治初期の洋風建築の校舎は県指定の重要文化財になっていて、レトロモダンなデザインは欧米文化に慣れ親しんだ現代でもじゅうぶん通用するレベル。ここを背景に今回の旅に供したフレックスドリーム高崎店のデモカー、LINE・X仕様のFD・BOX2T改と始めて撮影したのが左下のカットで、和装がよく似合うモデルは編集部員の松森嬢だ。彼女は大学の史学科で学んだ正真正銘の「歴史」で、戦国時代に関する造詣も深く、自ら着付けをこなすほど和装を愛する大和撫子。いつもはオッサンばかりでむさ苦しい!? 本企画だが、和装の松森嬢が「一服の清涼剤」として誌面に華を添えた。



●経年劣化や中越地震や東日本大震災で生じた漆喰壁のひび割れの修復が行なわれ、約130前に建てられた当時の美しい外観が復活した

中之条町歴史と民俗の博物館
ミュージゼ

群馬県吾妻郡
中之条町中之条町947
☎0279-75-1922

モダンな外観の本館は明治18年に旧吾妻第三小学校として開校し、昭和53年に明治初期の洋風学校建築の数少ない建造物として群馬県指定の重要文化財になった。

その後、町の歴史民俗資料館として使われ、平成22年に博物館として登録された。館内は教室の雰囲気を残しつつ、町の歴史や民俗に関する展示室に活用している。



●常設展示室には真田氏の合戦や真田忍者に、興味深い資料が。JR吾妻線の郷原駅近くで出土し、国の天然記念物にも指定されているハート形土偶のレプリカなども展示



●1階では暮らしの変遷が分かりやすいように展示。開校当時の教室が再現されていて、小学校の2人掛けの机や椅子、年代別の教科書が展示され、130年前にタイムスリップ



●長い渡り廊下は木の板張りで、歩くたびに「ミシミシ」と音がする。ドラマや映画でしか見たことのないこしえの光景で、鉄筋コンクリートの校舎しか知らない世代にはとても新鮮



●まるで天然の温水プールのように、ボール投げなど川遊びも楽しい。調子に乗って泳いだら湯あたりした。増水時は入浴できない



●無料で24時間いつでも入浴でき、裸のままでも水着着用でもどちらでもOK。川岸に屋根付きの湯小屋が備わり、ここを脱衣所代わりに使えそう。ハイエースなら車内で着替えられるので問題ない。駐車場は少し離れた場所にある

尻焼温泉

群馬県吾妻郡中之条町入山

長笹沢川の川底から湧き出る温泉で、川自体が大きな露天風呂になっているユニークな天然温泉。痔の治療に効果があるとされ、川底の石に腰を下ろして入浴する姿がお尻を焼いているように見えることから「尻焼」と名付けられた。



群馬 馬は日本屈指の温泉。兵庫の有馬、岐阜の下呂とともに日本三名泉のひとつに数えられ、毎分3万2000ℓ以上と、自然湧出量で日本一を誇る草津温泉を筆頭に、長篠の戦いで織田・徳川の連合軍に敗れた武田勝頼が負傷者を治療する目的で、源泉を各浴槽に引湯するために真田昌幸に命じて造らせたといわれる石段街で有名な伊香保温泉など、455の源泉と100カ所以上の温泉地が観光客をもてなす。なかでもロケーションと泉質に優れた名湯がひしめくのが、群馬北西に位置し、新潟・長野に接する県境の町、中之条。首都圏から鉄道や直行バスでアクセスしやすい草津や伊香保に比べるとやや不便だが、マイカー利用なら関係ない。平日でも観光客でにぎわう草津に比べ、喧騒から離れた自然のなかでゆったり過ごせて、ちょっとした秘湯気分も味わえるので、温泉好きにはたまらない。ぜひ訪れてみたかったのが山間の六合地区にある尻焼温泉。痔の治療に効能があるとされ、川底の石に腰を下ろして入浴したことから「尻焼」と名付けられたとのこと。川底から温泉が湧き出ていて、場所によっては熱過ぎるほど。やっこのことで温め場所を探し当て、ハルゼミの大合唱を聞きながらじっくり入浴した。



●つむじ風をイメージした円形の建物には観光協会やカフェ、雑貨店、食堂、ペーカリー、ジェラート店など多彩なテナントが入る

中之条町ふるさと交流センター
つむじ

群馬県吾妻郡中之条町中之条町938
☎0279-26-3751

地産食材を生かしたカフェ、伝統工芸品や作家の一点モノが揃うショップ、四万温泉の湯が楽しめる足湯など、たくさんの「楽しい」を集めた中之条エリアの情報・文化発信基地。ワークショップの催しやアートの展示も行なわれる。



●つむじのマスコットキャラクター「つむじくん」



●カフェに併設されたショップでは地元の工芸作家が作った作品や、素材や製法にこだわった特産品が販売されおみやげに最適。写真のジェラートはテナントのひとつ「ロカレ・ジェラート」で味わえる。四万湖の青い湖水をイメージした「四万ブルー」が人気のフレーバー



●四万の湯を手軽に楽しめる足湯（ゆさんだむしえ）。天井が高く開放感に満ちた雰囲気ゆつたり温浴できる。足拭きタオルは50円。湯はスタッフにより定期的に四万温泉から運ばれている

群馬 真田街道
ハイエースでゆく
Nippon
自遊旅
真田を追って上州へ
手柄取ったり! 群馬旅

古きよき時代の日本が残る町、中之条
里山、旧制小学校、地元の人とのふれあい……そんな中之条町の風景は、年長者には懐かしく、若い人には新しい。隔年で意欲的なアートイベントも催している、まさに新旧がほどよく融合した町で、われわれは妖精を見た?!

宿場町に響く水車や蹄鉄の音

真田街道に沿って吾妻地域から利根沼田地域へ。関東平野を貫く大河、利根川の流域へと移る。群馬から新潟へと続く三國街道にある、体験施設へと生まれ変わった旧宿場町でひと休み。



たくみの里
群馬県利根郡みなかみ町須川847
☎0278-64-2210

東京ドーム約70個分に相当する約3.3kmの集落に、昔ながらの手法をそのままに、木工や竹細工、和紙などの手作り体験ができる「たくみの家」が点在する。かつて農閑期の副業として木工やワラ細工などの工芸品作りが盛んに行われていた名残であり、優れた技とノウハウを持つ各分野の「匠」から直接指導を受けながらオリジナルの作品が作れる。

●たくみの里内は徒歩やレンタルサイクルで散策できる。ばん馬の「カント太」くんが引く周遊馬車は当地の名物。夏期を中心に運行しているが、足を負傷したため引退も近いとか。会いに行くと早め!



●たくみの里にある直売所。みなかみ町特産の大粒大豆オオトルを使った手作りの豆腐や、のむヨーグルト、ヘルシーな塩ヨーグルトなどが人気商品



群馬 Nippon 真田街道

真田を追って上州へ
手柄取ったり! 群馬旅

ハイエースでゆく
Nippon
自遊旅

すがの歴史も歴史散策ばかりでは堅苦しく、少しはドライブ気分を味わいたいはず。そこで、真田街道から横道にそれて、群馬県最北のみなかみ方面に進路変更。関越道・月夜野ICから国道17号線経由で約15分、かつて上州と越後を結んだ旧三國街道沿いの宿場町、須川宿にある「たくみの里」で手作り体験をするために立ち寄った。

この辺りは街道屈指の宿場町として栄えたが、明治時代にメインルートから外れると活気を失った。しかし1980年代に町おこしの一環で往時をしのばせる街並みに整備され、現在は観光客でにぎわっている。この地域では農閑期の副業として木工やワラ細工など工芸品作りが盛んに行なわれていた。たくみの里では優れた技術を持つ「匠」から直接指導を受けながら工作体験ができる。陶芸、蒔工芸、竹細工、七宝焼きなど体験メニューは多種多様だが、今回チャレンジするのはみなかみ町発祥の教育用カステネットの絵付け。利根川上流の国有林で育ったサクラ、ブナ、クリ、ミズキの4種類の木材から選んで、好みの音色のカステネットが作れる。職人の手作業で美しく成形されたパーツを組み立て、表面に絵や文字を描けば立派なお土産に変身。旅の記念にうってつけだ。

●メインストリートの宿場通りにある水車前でFD-BOX 2T改を撮影。曇田気を台無しにする派手な看板や電柱が目立たないの。まるで時代劇の1シーンのよう。旧街道を往く武士のような風格だ



●カステネット上部と下部の木を4種の木材から選ぶ。それぞれ音色や木目、色が異なるので、比較して好みのものを選ぶ。次にマジックで絵付け。松森嬢は真田赤備え姿のくんまちゃん、筆森は口カルテレビ局のキャラクターを描いた



カステネットの
絵付け体験

完成!

ひもを通す

見学

絵付け

材料選び

たくみの里への道すがら立ち寄ったのが、豊臣秀吉が天下統一を果たすきっかけとなった名胡桃城。東吾妻の岩櫃城と並ぶ真田の重要拠点として、ドラマでも名胡桃の領有に強くこだわる昌幸像が描かれていた。利根川の浸食によって生まれた利根沼田の河岸段丘。その地形的メリツトを生かし、急な崖(段丘崖)の上にある平らな台地(段丘面)に築くことで、自然の要害に守られた難攻不落の城として敵の侵略を防げる。利根川の東側にある沼田城は北条

氏の支配下にあり、それと対峙する西側の高台に沼田攻略の前線基地となる名胡桃城が武田勝頼の命を受けた真田昌幸によって築かれ、ほどなく調略によって沼田城を手に入れた。武田氏が滅んだ後も利根沼田は北条氏と真田氏の間で領土争いが絶えず、天下統一を目指す秀吉は関東・奥州の大名に対し私闘を禁じる「惣物事令」を出し、全国の諸大名に上洛を命じた。しかし北条氏政・氏直は上洛の条件として利根吾妻の領有を主張。これに対して昌幸が「名胡

桃城は絶対に渡せない」と訴えた結果、秀吉は利根川を境に東側を北条西側を真田にとの裁定を下した。ところが沼田城代の猪俣邦憲が名胡桃城を不法に攻略。これに激怒した秀吉は北条討伐を全国の大名に命じ、22万もの兵を小田原に集め、抵抗むなしく北条氏は降伏する。ここに5代100年にわたって関東に君臨した北条氏は滅亡し、約120年続いた戦国時代が幕を閉じた。この小さな山城がきっかけで時代が変わったとは、やはり歴史は面白い。

名胡桃城址 | 群馬県利根郡みなかみ町下津



●城の本体になる本郭がむき出しにならないように設けられた「さき郭」の先端にある袖郭付近から沼田方面を望む。沼田城址は右の山に隠れて見えないが、沼田台地の様子が一望でき、対岸を支配する北条の動きを把握するには格好だろう



●城の出入り口の外側に堀や土塁で造った防衛・攻撃施設が馬出。それが発達して大型化したものが出丸と呼ばれ、大坂城に真田幸村が築いた真田丸もそのひとつ。発掘調査で堀から鉛や銅合金の鉄砲玉が見えられた



●案内所で城の概要を分かりやすく編集したビデオや、城を鳥瞰できるジオラマを見て予備知識を深めてから城址見学すると各施設の役割が理解しやすくなる。朱印状や小田原攻めに関する書状の写しなども展示されている



●地元のボランティアの案内で城址をじっくり見学。写真は正13年に名胡桃城を築いた安山によって本郭中央に建立された石碑で、付近の山から切り出された安山を使用。明治から昭和にかけて活躍した徳富蘇峰による揮毫



沼田城址公園

群馬県沼田市西倉内町594



●天文元(1532)年、沼田氏が築いた沼田城は戦乱を経て天正18(1590)年に真田家の居城となる。初代沼田城主となった信之(幸村の兄)は領内の復興に努め、当地に安泰の世をもたらした。園内には信之とその妻、小松姫の像が立っている

●公園のシンボル、鐘楼。信之と小松姫の子、信吉が領内の安泰を祈願して鑄造させた「城鐘」を保護するために建てられた鐘楼を復元したもの。公園にある城鐘はレプリカで、本物は沼田市内で開催されている「真田丸展」(2017年3月31日まで)で公開されている



●信之と小松姫の石像の台座に、賽銭代わりに納められた六紋銀の5円玉。沼田をはじめ、真田街道のいたるところで「真田の赤堀」の色遣いをあしらったノボリを目にした。街道は今まさに真田ブームで赤く燃えさかっている!



●セカンド/サードシートは立体成形の1300mm幅T-R EVOで、フォアシートは純正の跳ね上げ式。ロングスライドレールがセットされ、シートを前方に移動させるとトランポ並みの荷室長が得られる。サブバッテリーやFFヒーター、350Wインバーターをセットにした車中泊パッケージも設定

「ハイエース+群馬」という旅のテーマにふさわしい撮影車として選んだのが、フレックス・ドリーム高崎店のデモカー。2/3列目マルチアクションの3人掛けT・REVOシートを装着したFD・BOX2T改で、対座やフラットベッドに簡単にアレンジでき、前向きに10人が乗車可能。さらに、重歩行仕様のフロアにロングスライドレールを組み込み、シートを前方に移動させることで190cm超の荷室長を確保できる。トランポ要素を兼ね備えたモデルだ。外観は野山を駆け抜ける戦国武将をイメージさせるワイルドなスタイルで、かつてのRVブーム全盛時代を彷彿させる、リフトアップ系オールモード4WDスタイルを提案する。足まわりはオリジナルの2.5インチ



flexdream

ハイエースワゴンGL 4WD
FD-BOX2T改

Spec.

内装：T-REVO1300mm立体成形シート/ロングスライドレール/フルフラットベッド展開/重歩行フローリング/純正4列目跳ね上げシート(特注シートカバー)/車中泊パッケージプラス/走行充電式サブバッテリー/FFヒーターなど
外装：特設色ライトイエロー/trexdream2.5インチリフトアップキット/LINE-Xデザートカーキ塗装(415コブラby 2ボンネット・前後カバー)/LINE-Xマットブラック塗装(JAOS前後スキッドパー・CRSオーバーフェンダー・純正グリル)など

乗車定員：10人 就寝人数：2人
登録ナンバー：3



フレックス・ドリーム高崎店

群馬県高崎市上中居町377-5
☎027-387-0819 水曜日

●路面を飾るFD-BOX2T改は高崎店の試乗車。リフトアップやオールテイルタイヤの乗り心地やハンドリングを体感できる



●利根川にかかる諏訪峡大橋は水上温泉の玄関口。橋の中ほどにあるジャンプエリアからは清流と谷川岳が一望できる。運がよければJR上越線走るSLやラフティングの一群に出会えるかも



●ラフティングやカヌーなど、みなかみはアウトドアがさかん。今回編集部が挑戦するのは…



●ジャンプエリアでは経験豊富なスタッフが安全基準に基づいて器具を調整、何度もチェックしてくれる。あとは勇気を出して飛ぶだけだ



バンジー・ジャパン

群馬県利根郡みなかみ町小日向143
☎0278-72-8133

●2007年にスタートし、年間7000人以上が挑戦する。日本でもっとも歴史あるブリッジバンジーキャンプ。谷川岳を正面に望み大自然の懐へ飛び込もう

総

延長323kmと信濃川に次いで日本で2番目に長い利根川は、坂東太郎の異名を持つ。これは関東で一番大きな川という意味で、流域面積は日本一。真田と北条もこの川をはさんでにらみ合った。みかみ町は利根川の上流域にあり、日本百名山の谷川岳での登山やトレッキング、利根川のダイナミックな急流を生かして川を下るラフティングやキャニオニング、シャワークライミング(沢登り)、湖でのカヌーなど、豊かな自然のなかで楽しむアクティビティが充実している。筆者と松森嬢はブリッジバンジーキャンプに挑戦。紅葉の名所として有名な諏訪峡大橋に設けられたジャンプ台に立つと、想像以上の恐怖に襲われた。高低差は42mで10階建てのビルに相当。心拍数が高くなるのを感じながら、視線は正面の谷川岳に。「ここで飛ばなきゃ男が腐る」と意を決し谷底にダイビング。ロープが伸び切るまでわずか数秒だが、人生最高のスリルを体験できた。この緊張感と達成感、ぜひお試しあれ。上州旅の終着点は沼田城。初代城主の真田信幸から沼田の真田氏は5代続き、当地の経営にあたった。河岸段丘上にある城下町のいたる所に六文銭の真つ赤なノボリがたなびき、ドラマの人気ぶりを改めて実感した。

一世一代のバンジー・ジャンプ!

天下一のつわものになる!

がんばりましたの認定書

うわ〜!

もう立てない〜!

おかーさん!

群馬県 真田街道

ハイエースでゆく Nippon 自遊旅

真田を追って上州へ 手柄取ったり! 群馬旅

●高さ42mの諏訪峡大橋のほか全国4カ所でブリッジバンジーキャンプを実施。最高は茨城県の常陸太田市にある竜神大吊橋で高さ100m。42mは初心者向けらしいが、度胸試しにはじゅうぶん過ぎるぐらい。命綱が伸び切り数回バウンドして宙を舞った後、川岸で待機するボートに回収され、チャレンジ記念の認定書が手渡される